

HAKUKO

VOL. 1



《鷓鴣尊》中国・殷(紀元前13～前12世紀)

住友コレクションの美術館「^{せん おく はく こ かん}泉屋博古館」、ニュースレター創刊によせて

泉屋博古館は、京都・東京の二つの美術館で、住友家旧蔵の美術品を中心とする住友コレクションの保存、調査研究、公開を行っています。家業の銅ゆかりの中国古代青銅器の名品をはじめ、絵画・工芸品の広範なジャンルに及ぶ収蔵品の、継続的な調査研究をもとにユニークな展覧会を開催しています。この度、住友グループを中心とする賛助会特別法人会員各社様をはじめ、当館をご支援くださっている皆さまに、当館の活動情報を提供するニュースレターを創刊いたしました。ご愛読たまわり、皆さまにご来館いただけますことを心よりお待ちしております。

左：泉屋博古館(京都・鹿ヶ谷)
右：泉屋博古館東京(東京・六本木)

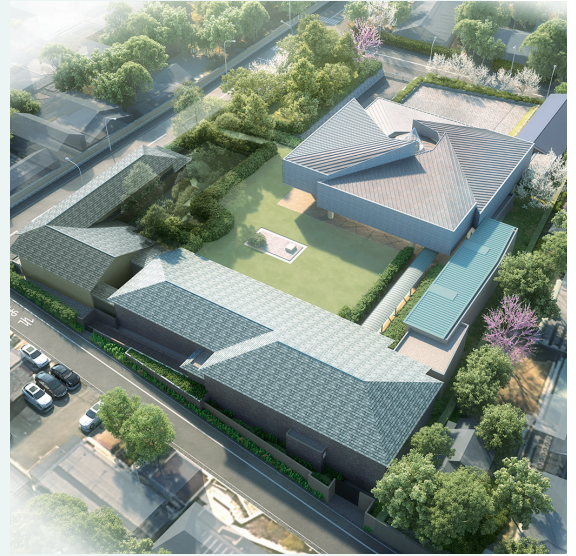
CONTENTS

- 泉屋ニュースレターHAKUKO創刊によせて ——— 1
- 泉屋博古館 改修工事について ——— 2
- 泉屋博古館東京 秋季特別展について ——— 3
- 2025年泉屋博古館・泉屋博古館東京 展覧会案内 — 4

泉屋博古館 SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM

春までお休み、半世紀ぶりのお色直し

泉屋博古館(せんおくはくこかん/京都)は、1970年竣工の1号館と1986年竣工の2号館のふたつの建物、そして小川せせらぐ前庭「泉屋博古の庭」、東山の借景が美しい中庭をそなえる美術館です。これらをひとつの空間としてこの先も大切に守り、皆さまにより一層快適にご利用いただけるよう、現在改修工事をおこなっています。リニューアルオープンは2025年4月。大阪・関西万博とあわせてぜひ京都へもお越しください。



快適性と安全性をめざして

展示室はより広く、より美しく

企画展の開催会場に新しい展示室が誕生。大きな部屋ではありませんが展覧会がより充実します。青銅器館の展示も刷新。



改修前

新しい展示室が誕生…！

青銅器館本来の建築意匠へ

中央階段の車いす用リフトを撤去、竣工当時の姿を取り戻します。リフトの移設先には「泉屋博古の庭」を臨む新しいスポット「眺めのいい部屋」が。

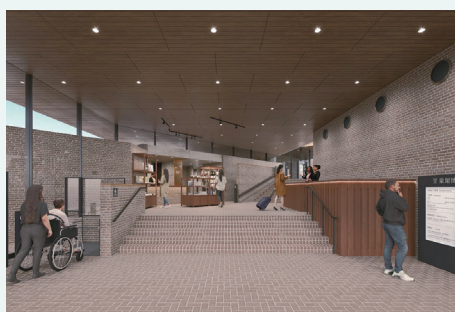


改修前

改修後

美術館の新たな「顔」

現代のニーズに対応する大きなインフォメーションカウンターが出現。美術館の新たな「顔」として皆さまをお迎えます。大きな荷物もお預かりいたします。



改修後イメージ

ショップの開設

改修前はミュージアムグッズをインフォメーションの一角で取り扱っていましたが、念願のミュージアムショップを新装オープンします。オリジナルグッズも続々登場、ここでしか買えない商品にもご注目ください。



改修後イメージ

ユーザビリティの向上

門から建物への石畳のルートを車いすも通れるバリアフリーに改良。歩行もしやすくなります。また、このたび多目的トイレや授乳室を新設。より多くの皆さまに安心と快適を。



左：(改修前)1号館が見える正門。改修後は車も歩行者も入りやすく
右：(改修前)改修後は段差をなくし、車いすも通れるプロムナードに

文化財を未来へ

文化財を安全に保存するため、収蔵庫を増築します。貴重な作品を後世へ継承するとともに、コレクションのさらなる充実をはかってまいります。



泉屋博古館東京

SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

東京初、大回顧展。一度見たら、忘れられないの

[秋季特別展]

オタケ・インパクト―越堂・竹坡・国観、尾竹三兄弟の日本画アナキズム

会 期 2024年10月19日(土)～12月15日(日) (前期10/19-11/17、後期11/19-12/15)

休 館 日 月曜日(11月4日は開館)、11月5日(火)

開館時間 11:00～18:00 ※金曜日のみ19:00閉館。入館は閉館の30分前まで。

入 館 料 1,200円(1,000円)、高大生800円(700円)、中学生以下無料 ※()内は団体料金

主催 | 公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社

後援 | 港区教育委員会

助成 | 芸術文化振興基金



尾竹越堂、竹坡、国観の三兄弟は、明治から昭和にかけて活躍した日本画家たちです。彼らは全国公募展での三兄弟同時入選という快挙を成し遂げ、「尾竹三兄弟」として全国にその名を轟かせました。本展は、東京で尾竹三兄弟を紹介する初めての展覧会です。彼らの代表作をはじめ、多数の新発見作品から、知られざる尾竹三兄弟を紹介します。日本絵画の伝統をベースに新しい日本画の可能性を示した彼らの革新的かつ魅力に溢れる作品は、きっと今の私たちの眼にも新鮮に映るはずで

泉屋博古館東京では、住友に関する特集展示を年1～2回開催していますが、実は尾竹三兄弟も住友とゆかりの深い画家です。第15代住友吉左衛門友純(号春翠)は、明治末から大正にかけて尾竹三兄弟と親交を結びました。明治42年(1909)に洋画家・鹿子木孟郎の紹介で竹坡の第3回文展出品作《茸狩》を購入して以降、次々と大作を購入しています。また作品購入にとどまらず、宴席に三兄弟を招き、即興で共に筆を揮って清遊に興じた様子が伝えられています。このように作品購入を機にはじまった交流から、単なる注文主と制作者を越えた親しき関係を築きました。

この作品に注目!



尾竹国観《絵踏》 1908年 泉屋博古館東京蔵

いわくつきの…

キリシタンを見つけ出すために、聖母子像を踏ませようとする緊張の一瞬を描いた作品。尾竹三兄弟が岡倉天心と衝突した際に展覧会から撤去されて行方不明になった幻の作品が今回の展覧会準備の調査で発見されました。横幅3メートルを越す大作です。

110年ぶりの里帰り公開!

モクレンの枝に羽を休める九冠鳥が描かれた煌びやかな総金地の屏風。本作は巽画会展に出品されたのちに住友が購入したもので、住友が手放した後は所在不明となっていました。今回はその「里帰り」展示となり、およそ110年ぶりの公開になります。



尾竹竹坡《九冠鳥》左隻 1912年 個人蔵 (展示期間:11/19-12/15)

泉屋博古館(京都・鹿ヶ谷)

2025年上半期展覧会スケジュール

ブロンズギャラリー 中国青銅器の時代

2025年4月26日(土)～8月17日(日)

リニューアルオープンを記念し展示を一新。中国古代青銅器の魅力をも最新のデジタルテクノロジーも駆使して紹介します。



《虎首》 殷後期
(紀元前11世紀)
泉屋博古館

リニューアル記念名品展 I

帰ってきた泉屋博古館 いにしへの至宝たち

2025年4月26日(土)～6月8日(日)

リニューアルオープンを記念し、住友家伝来の美術品から仏教美術や中国・日本の書画、工芸など名品を精選して紹介します。不朽の住友コレクション、その奥深さに再び出会う機会です。

伊藤若冲《海棠目白図》
江戸時代(18世紀)
泉屋博古館



リニューアル記念名品展 II

続・帰ってきた泉屋博古館 近代の美術、もうひとつの在り方

2025年6月21日(土)～8月3日(日)

リニューアルオープン記念の第二幕として近代の美術にフォーカスします。近年、人気が高まった木島櫻谷や板谷波山のほか、新たな「名品」を発掘いたします。



板谷波山《果彩光珍珍
果文花瓶》重要文化財
大正6年(1917)
泉屋博古館東京

※現在改修工事のため休館中、2025年4月26日再開館の予定

INFORMATION

入館料 | 一般1,000円(特別展1,200円)、学生600円(特別展800円)、18歳以下無料
6/10-6/20、8/5-8/17はブロンズギャラリーのみ開館(一般600円、学生400円)

※学生ならびに18歳以下の方は証明書をご呈示ください

※20名様以上は団体料金 ※障がい者手帳等ご呈示の方はご本人および同伴者1名まで無料

開館時間 | 10:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌平日)、展示替え期間中、夏期・冬期

ACCESS

[京都市営地下鉄]

●東西線「蹴上」駅より徒歩約20分

[京都市バス]

●5系統・93系統・203系統・204系統

「東天王町」下車、東へ徒歩200メートル

●32系統「宮ノ前町」下車すぐ



泉屋博古館 SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM

〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24番地

TEL. 075-771-6411 公式サイト <https://sen-oku.or.jp/kyoto/>



泉屋博古館東京(東京・六本木)

2025年上半期展覧会スケジュール

企画展

花器のある風景

[同時開催]

受贈記念「大郷理明コレクションの花器」

2025年1月25日(土)～3月16日(日)

住友コレクションより花器が描かれた絵画や、花入などの工芸作品を展示します。あわせて、華道家・大郷理明氏より近年ご寄贈頂いた花器コレクションを紹介します。



《古銅象耳花入 銘 キネナリ》元時代(14世紀)
泉屋博古館東京

企画展

ライトアップ木島櫻谷 II

—おこくの線をさがしに 併設四季連作屏風

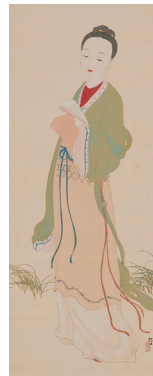
[同時開催]

特集展示「住友財団助成による文化財修復成果—文化財よ、永遠に2025」

2025年4月5日(土)～5月18日(日)

近年再評価が進む日本画家・木島櫻谷の絵画表現の特質を紹介する展覧会シリーズです。併せて、公益財団法人住友財団による文化財維持・修復事業助成により甦った作品を展示し、文化財修復の最前線を紹介いたします。

木島櫻谷《唐美人》大正時代(20世紀)
泉屋博古館東京



企画展

中国古代の神話とデザイン(仮)

2025年6月7日(土)～7月27日(日)

国際的にも評価の高い住友コレクションの青銅鏡を中心に、神話や伝説のモチーフに表わされた中国古代の世界観をわかりやすく紹介します。



《鷓鴣尊》 殷後期
(紀元前13～前12世紀)
泉屋博古館

INFORMATION ※2025年1月より改定

入館料 | 一般1,200円(特別展1,500円)、学生600円(特別展800円)、18歳以下無料

※学生ならびに18歳以下の方は証明書をご呈示ください

※20名様以上は団体料金 ※障がい者手帳等ご呈示の方はご本人および同伴者1名まで無料

開館時間 | 11:00～18:00 ※金曜日は19:00まで開館(入館は閉館の30分前まで)

休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌平日)、展示替え期間中

ACCESS

[東京メトロ]

●南北線「六本木一丁目」駅北改札正面

泉ガーデン屋外エスカレーターで3分

●日比谷線「神谷町」駅4b出口より徒歩10分

●銀座線「溜池山王」駅

13番出口より徒歩10分



泉屋博古館東京 SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

〒106-0032 東京都港区六本木1丁目5番地1号

TEL. 050-5541-8600(ハローダイヤル) 公式サイト <https://sen-oku.or.jp/tokyo/>



COVER

《鷓鴣尊》中国・殷時代後期(前13～前12世紀)

※泉屋博古館(4月～5月中・9月下～12月)、泉屋博古館東京(6月～7月)にて展示

鷓鴣はフクロウ、ミミズの類いを表し、本作は頭の上に羽角がたつためミミズクと思われる。尊は古代中国で酒を入れて宗廟にそなえた祭祀用の器。頭部が蓋になっている。